

食の国際交流と豊かな食生活をめざして

日本通として知られ、ヨーロッパの生活も経験されて、文字通り国際的な味覚を持たれた元米国駐日大使・故ライシャワー博士は、「食の国際交流」が世界中の人々に豊かな食生活をもたらしていることを、当社に寄せたメッセージのなかで述べられています。そしてその例証として、日本人の食生活に欠かせない基礎調味料・しょうゆのアメリカ進出と成功を取り上げています。

また評論家の花田清輝は「真にナショナルなのは、実はインターナショナルである」と喝破しま

したが、まさにしょうゆについて述べているかのようです。

このように一国の食文化が、世界各国の文化に融け込み、新しい食文化として芽生え、成長するとき、人々のより豊かな食生活が育まれるのです。

当センターの活動が、日本はもちろん世界の国々の食の歴史や食文化の紹介にとどまらず、「食の国際交流」に少しでも寄与できることを願っています。

キッコーマン国際食文化研究センター



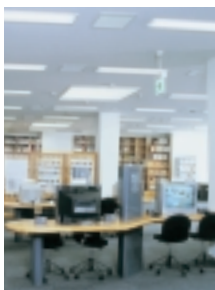
閲覧コーナー



キッコーマンの故郷——野田の町並みに調和させた野田本社



図書コーナー



メディアコーナー



企画展示コーナー

<http://kiifc.kikkoman.co.jp/>

キッコーマン国際食文化研究センター

〒278-8601 千葉県野田市野田250 TEL:04-7123-5215 FAX:04-7123-5218

<開館時間>午前10時～午後5時 <休館日>土・日曜日、祝日、年末・年始、ゴールデンウィーク、旧盆

※詳細は当センターへお問い合わせください。

表紙の解説

「使節ペリ横浜応接之図」(横浜中央図書館蔵)
一八五四年(安政元年)三月八日、史上初の日米公式
会談を幕府側の松代藩総領・高川文室が描いた絵。
手前右から林大学頭を筆頭に、応接掛、その対面
がペリー提督、参謀長アダムス、ペリーの息子と
並ぶ。

左端で白い面帳を開いているのがペリー艦隊に随
行したハイネ(当該第八号の表紙を描いた画家)で
ある。

[本号表紙]

[第八号の表紙部分拡大]

ペリー提督と随行員の一行は、
左端の建物(横浜応接場)へと向かう